

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 6 年 8 月 2 日

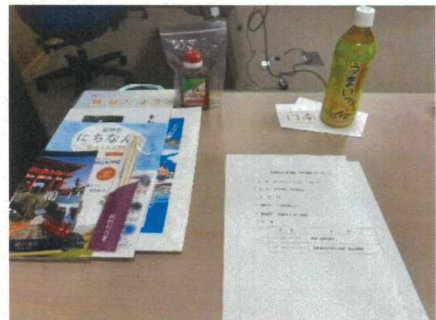
犬 山 市 議 会

議長 柴 田 浩 行 様

議員 名 小 川 清 美

下記のとおり、先進地視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和 6 年 7 月 2 9 日 (月) ～ 令和 6 年 7 月 3 1 日 (水) (2 泊 3 日)
(2) 場 所	宮崎県日南市 鹿児島県霧島市 鹿児島県南九州市
(3) 形 態	会派 (創犬会+公明クラブ) 合同先進地視察研修
(4) 内 容	▼宮崎県日南市 (於 ; 日南市役所) 内容 ; I T 企業誘致について 対応 ; 濱中議長、前田副議長、 商工政策課 阪元氏ほか (1) 概況 地方中小都市や中山間地域の自治体では、若年層の流出が深刻化し、「消滅可能性都市」など基礎自治体の存続すら危ぶまれるなか、本社等の業務を一部分担する「サテライトオフィス」が、若年層 (在住者・移住者双方) にとって魅力的な就労先となる理由から I T 企業を誘致する動きが加速している。 そのなかで、宮崎県南部に位置する日南市は、サテライトオフィス誘致に成功した事例として有名である。宮崎市中心部から車で約 1 時間と、交通アクセスに優れた場所とはいえないが、同市には現在まで 10 社以上の I T 企業がサテライトオフィスを設置している。 (2) レクチャー ・中心市街地活性化の一つとして、商店街に I T 企業を誘致 ・誘致により、若者が住み活性化が進んだ ・出店店舗数は 4 年間目標 20 店舗としたが、終了時では 28 店舗となり、成功とみている。 ・成功の最大の要因は、田鹿倫基氏と木藤亮太氏の二人の民間人の登用 ※前市長の人脈により発掘 ・地域起こし協力隊を運用。I T 企業同士の繋がりがあり、スムーズな展開ができた。



▼鹿児島県霧島市 （於；霧島市役所）

内容；定住促進について

対応；前島副議長 地域政策課

(1) 概況

新型コロナウイルス感染拡大でリモートワークが、広く現実化したなか、地価が高く、自然環境が少ない都心部で暮らすよりも、自然豊かな地方で暮らすほうが合理的で豊かな人生を送ることができる、地方移住を実行する人は年々増えている。そして、全国の移住地の中でも、抜きん出て人気があるのが鹿児島県霧島市。同市に移住する人は年々増加しており、一時は「九州エリアの移住1位」にもなった。市全体の人口は減少傾向にある一方、2019年以降は他エリアからの移住者が、162人（2018年）から243人（2019年）と1.5倍以上にも増加。

これだけ増えている大きな理由は、利便性や自然環境の豊かさに加え、他の地域に比べ、自治体の補助（移住体験、移住者への補助）などの受け入れ体制が手厚い点にあるようだが・・・。

(2) レクチャー

- ・人口減少と高齢化の進行とともに、コミュニティ機能の低下、商店数の減少が課題である一方で、市街地では宅地化が進んでいる。
- ・そうした中、当初は専門グループを創り対応していたが現在は、地域政策課に部署を設けているものの、3人程度

- ・H19年度から移住体験研修事業開始

- ・その後オーダーメイド型移住体験ツアー（2泊3日程度）など展開

宿泊先などの手配は行うものの、その他の経費は参加者負担としている。

- ・こうしたツアー事業の企画、ガイドツアーなど、全て市の職員が対応している。

- ・市街県外（大阪や東京）でのPR活動も展開しているが、東京を含め市の関係事務所は設置していない。

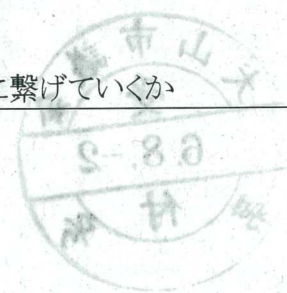
- ・今後の課題として、

①市の魅力を広くPRしていく手法の検討

②情報発信力を高める検討

③移住相談体制の充実を図る

④移住相談から移住体験ツアー等に如何に繋げていくか





議場にて(霧島市)

▼鹿児島県南九州市 (於；知覧特攻平和会館)

内容；平和学習（教育）について

対応；平和会館館長

(1) 概況

知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たりした陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え世界恒久の平和に寄与する施設。

知覧は、1941年(昭和16年)、大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所が開校、少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ねていたが戦況が緊迫し陰悪となり、遂に1945年(昭和20年)本土最南端の陸軍特攻基地となり、20歳前後の若い隊員達が満州・日本内地から集結しては、家族・国の将来を思いながら出撃した地。沖縄戦で特攻戦死された上1036名の隊員は、知覧基地を主軸として万世・都城基地から、第8飛行師団は台湾各基地、義烈空挺隊は健軍(熊本)基地から出撃している。

(2) 「語り部による講話」 桑代照明 氏

語り部は現在4名、高齢化による後継不足が課題

※沖縄戦で特攻戦死された1036名の隊員のうち、知覧から赴いたのは468名

※特攻の成功率は9機に1機程度とのこと

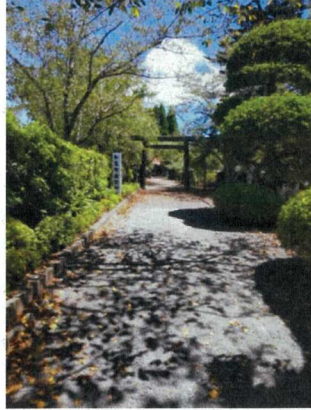
(3) 会館建設の経緯

日本経済も安定成長期にはいった昭和40年代に、少飛会・特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」建設の声が続出し、全国の特攻関係者や一般有志の方々に募金を呼びかけて浄財による建設を計画。広く募金活動を展開したが、昭和48年に始まった第一次オイルショックに直面し計画が頓挫。

その後昭和49年に運動公園の休憩施設として過疎債を利用し「特攻遺品館」を建設、昭和60年～61年度特別対策事業で場所を移し

て建設し、名称も「知覧特攻平和会館」と改称し、昭和 61 年 12 月仮開館し、昭和 62 年 2 月に落成。資料が続々と収集され手狭になったため、平成元年 3 月別館増築。

敷地内施設



特攻像

←護国神社

(5) 成果・提言

【日南市 I T 企業誘致関係】

- I T 企業誘致で、一時期有名となったという感は否めない。実際に現地を見た限り、状況を確認することが出来なかった。百聞は一見に如かずといったところか。

【霧島市定住促進関係】

- 全国どこの自治体も定住施策として様々な制度や企画を実施している。自治体間競争にどう挑んでいくかが、成否を分ける。制度を造り P R しただけでは、限界があると感じた。その点霧島市は県外への積極的な展開やツアーの企画など、行っており、大いに見習うべきと思う。

【南九州市平和学習関係】

- 平和学習(教育)は、非常に大切です。条件が合えば、語り部に来賓していただき、小中学校での講話を実施すべきと考える。